

第69回国際学生会議 事業計画書



目次

1. 代表挨拶	2
2. 団体概要	3
3. 団体理念	4
4. 団体沿革	5
5. 第69回国際学生会議開催概要	7
6. 総合テーマ説明	10
7. 分科会テーマ詳細	12
8. 第68回国際学生会議実績	21
9. 第69回国際学生会議実行委員会名簿	23

1.代表挨拶

国際学生会議とは、1954年に第一回を開催して以来、毎年夏の2週間、世界20ヶ国以上の学生が日本に集まり、寝食を共にしながら様々な議論や文化交流を行う学生団体です。

昨年度から、私は国際学生会議の活動に携わっております。3年前に来日し、日本語学校に通い、その後大学で学び続けてからというもの、常に新しい発見や学びはありましたが、特に国際学生会議での経験は私に大きな刺激を与えてくれました。活動を通してさまざまなバックグラウンドを持つ人と出会い、議論を通じて自分を表現する方法や多様な価値観、社会問題の深淵を知ることができ、能力的にも精神的にも成長することができたと感じております。その理由は、他の学生会議とは違い、複数の国から学生が一堂に介して議論を行うという点、学生だけで会議を運営する点にあると感じ、そこに国際学生会議の魅力があると考えております。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2020年度より、国際学生会議はオンラインでの開催を余儀なくされました。しかしながら、例年に違わず、活発なディスカッション、文化交流を行うことができました。また、海外出身の参加者が増えるなど、更にグローバルな展開を見せています。今年度は3年ぶりの対面での開催を予定しています。オンライン開催で得た学びを活かしつつ、これまでとは違う全く新しい国際学生会議を創り上げていく所存です。

今年度の第69回国際学生会議では、「次世代を創成する先駆者となろう~多様性に溢れ、持続可能で互いを尊重しあえる社会を目指して~」をテーマとして掲げています。国境、世代を超えて価値観を「尊重」しあうことで「多様性」に溢れた社会を実現し、更に私たちZ世代の次の世代にとっても「持続可能」な未来を創り上げていきたいという思いを込めました。こうした理念を達成するべく、「次世代を創成する先駆者」となるべき学生同士を世界中から招集し、お互いに学び、高め合い、自分を大きく成長させる機会を提供できるよう努めます。

第69回国際学生会議 代表
マリア・フランシスカ

2. 団体概要

国際学生会議の発端は、1934年に「世界の平和は太平洋の平和、太平洋の平和は日米間にあり、然してこの現実には若き日米学生の間における率直な意見の交換、及び、相互理解の信頼を促進しなくてはならない」という提唱文の下で開始した日米学生会議にあります。その後、1954年に国際学生会議と名前を変えて再出発することとなりましたが、長き歴史に渡って「世界平和達成への貢献」という使命は絶対的な軸として学生の中に在り続けます。

当団体の最大の活動は毎年、会議を開催することです。毎年8月の約2週間、日本中、世界中の学生を日本の一都市に集め、学術交流と文化交流を中心とした会議を開催します。会議には毎年国内外から約70名の学生が参加しますが、参加者の出身や経験に対して縛りはなく、会議参加の門は世界中の学生に対して開かれています。会議の開催にあたっては毎年国際社会の動向と参加者の興味に合わせた総合テーマが設定されます。こうした活動を通して、将来性がある学生に更なる成長の場を提供すること、社会のしがらみにとらわれない学生の生の声を社会に届けること、そして、多様性が尊重される社会の実現に寄与することを目指しています。

会議の開催に当たっては、毎年実行委員会が結成されます。会議自体は夏季の特定の2週間ですが、実行委員は会議の準備と運営のために通年で活動をしています。会議の企画と運営は全て学生のみで行われており、渉外活動や広報活動を通じて外部機関との連携や団体の発展を図るとともに、定例会や研究活動を行うことによって活動の充実と着実な準備に務めています。

国際学生会議は毎年発展を続け、今年で69回目を迎えます。特に近年は会議規模の拡大、プログラムの多様化、参加国数の著しい増加などの様々な面での進展が見られ、内容と質の双方が非常に充実した会議になっています。今後も国際社会の繁栄と若手人材の育成に貢献すべく、更なる努力を続けていきます。

3. 団体理念

当団体の理念として、大きく分けて世界平和への貢献、学生の主体性の養成、多様性の尊重、社会への貢献の4点が挙げられます。

私たちの最大の目的は国際社会の繁栄と秩序の安定に寄与し、最終的に世界平和に貢献することです。平和は国際社会が長年追い求めてきた絶対的目標であり、社会の一員である個人個人が目標達成に向けて努力することが求められています。しかし、平和といっても一概に定義することは容易ではありません。紛争やあらゆる対立がない世界を実現するだけでは十分とは言えません。そこで私たちは、近年注目されている人間の安全保障という概念を重要視し、誰一人取り残されない社会こそが目指すべき世界平和であると設定します。そして、学生である我々が当事者意識を持ち、如何にして世界平和 実現のために行動を起こしていくべきかを熟考します。

また、学生自身が主体的に物事を考え、行動に移す力を養うことは非常に大切です。自分たちの可能性に気づき、自分の身の回りや世界で起こっている問題に目を向けることで問題意識を高めることができ、創造的な発想や批判的な考察をする力を身につけることができます。当団体の取り組みの中でも、参加者がリーダーシップを発揮したり、自主的な判断をしたりできる機会を設定し、一人一人が主体性を養うことを促しています。感受性が豊かな学生という時期に培った自信と経験は、参加者にとって将来に繋がる大きな糧となることを信じています。

さらに、今日の国際的な環境において、多様性という要素は重要な概念です。世界中の多種多様な人々の交流において一人一人の個性や経験を尊重することは不可欠であり、多様性が受け入れられる 社会の実現に力を尽くすことは当団体の大きな使命の一つです。また、異なる文化や環境の中で生まれ育ち、多様な価値観を持つ学生たちの意見交換や交流は、参加者自身の知見と会議の議論の幅を広げる非常に意義の大きいものです。会議期間中の密度の濃い交流が、より多様な側面から考察された学術的成果を生み出すはずです。

最後に、忘れてはならないのが、一般社会において学生の立場と影響力はそこまで大きくないとはいえ、学生も社会の中で重要な存在であり、積極的な社会参加と社会貢献が求められているということです。学生の提言は未熟で野心的なものに止まるかもしれませんが、しかし、我々は社会的要因や国益などのしがらみに縛られない学生ならではの革新的な意見を大切にし、実際の会議の成果を様々な形で社会に発信していきます。さらに、会議終了後にも会議で培った問題意識や探究心を継続させ、参加者自身がそれぞれの形で社会の原動力となっていくという自覚と責任を持つように呼びかけています。

4.団体沿革

1934年 第1回日米学生会議（国際学生会議の母体）：

「世界の平和は太平洋の平和、太平洋の平和は日米間にあり、然してこの現実には若き日米学生の間においての率直な意見の交換、及び相互理解の信頼を促進しなければならない」という提唱文の下、青山学院大学にて開催。

1941年： 日米開戦により会議は開催されず。

1947年 第8回日米学生会議：

戦争の反省を踏まえ、「各国の親善と正しい理解こそが国際平和達成への唯一の道である」という認識下、日本で開催。

1954年 第15回日米学生会議：

アメリカで行われた会議を最後に日米学生会議は発展解消。

1954年 第1回国際学生会議：

12カ国から84名の外国人の参加。28日間にわたり、東京、関西、北海道、仙台で開催。

1962年 第9回国際学生会議：

団体代表者会議を新たに設置。以後の会議の充実と参加団体間の強い結束を目指す。

1964年 第16回 日米学生会議：国際教育振興会により復活。

1968年 学生運動の影響で日本国際学生協会の中央委員会が分裂。

1970年 第16回国際学生会議：

国際学生会議の再開。

1991年 第37回国際学生会議：

帯広市との協力により、市民の方との国際交流の体験を共にする。

4.団体沿革

2003年： SARSの大流行により、国際学生会議は開催されず。

2014年 第60回国際学生会議：
60回の節目を迎える。

2018年 第64回国際学生会議：
史上最多23カ国から学生が参加。成果発表会で国連開発計画駐日代表近藤哲生氏による基調講演。

2019年 第65回国際学生会議：
成果発表会で国連開発計画駐日代表近藤哲生氏による基調講演、国連教育科学文化機関アジア太平洋地域事務所長青柳茂氏によるクロージングスピーチ。

2020年 第66回国際学生会議：
新型コロナウイルス感染症の拡大により、事前招集会及び本会議のプログラムを中止。初の試みとなる、全てオンラインでのイベントを開催。

2021年 第67回国際学生会議：
新型コロナウイルス感染症の影響が引き続き、約4ヶ月間のオンライン会議を開催。

2022年 第68回国際学生会議

5. 第69回国際学生会議 開催概要

正式名表記 第69回国際学生会議

英語表記 The 69th International Student Conference

主催 国際学生会議 (International Student Conference)

総合テーマ: Be a Pioneer of the Next Generation: Action Towards Diversity, Sustainability, and Respect

次世代を担う開拓者になろう~多様性に溢れ、持続可能で互いを尊重しあえる社会を目指して~

日程

事前招集会: 2023年5月27日から5月28日の2日間オンラインにて開催の予定

事前勉強会: 2023年6月1日~8月13日の2ヶ月間オンラインにて開催の予定

本会議: 2023年8月19日から8月28日まで10日間、対面での開催を予定

(成果発表会は8月27日に開催予定)

参加者人数: 日本在住参加者 約18名 海外在住参加者 約12名 実行委員 15名

使用言語: 英語

感染症対策: 新型コロナウイルス感染症拡大・それによる社会状況に伴い、以下の対策を取るものとする。

- 屋内活動に制限が出た場合:
 - 人数を制限し、参加者同士のソーシャルディスタンスを保って会議を開催
 - 海外参加者の隔離(3日以内)が必要となる場合
 - 会議開催時期を約一週間前倒しにする
- 海外参加者の隔離(3日以上)が求められた場合、または海外参加者の来日が困難になった場合:
 - 日本在住参加者の人数を増やし、日本在住の学生のみでの会議を開催。
 - なお、団体理念は尊重され、国際交流の促進などを考慮した英語でのプログラムは継続される
 - 海外参加者に至っては、オンラインでの会議を開催する
- 10人以上の屋内活動が制限された場合:
 - 全面オンラインでの会議開催に移行
 - 大幅な事業費の組み換えを行う

5. 第69回国際学生会議 開催概要

プログラム詳細

< 事前招集会 >

事前招集会はハイブリッドで開催されるイベントで、国内・国外参加者が顔合わせをする大切な機会です。国内参加者・海外参加者はオンラインにて開催しました。現段階では、5月27日から5月28日の2日間にかけて、開催しました。1日目は、実行委員会から、国際学生会議とはどのようなプログラムなのかを説明し今後の予定について紹介しました。後半は、参加者は各分科会に分かれ、それぞれのトピックについて話し合う機会を持ちました。最後には実行委員が文化交流イベントを開催し、本会議に向けての第一歩を踏み出す環境づくりを行っていました。

< 勉強会 >

勉強会はオンラインで開催され、本会議に向けての準備期間のことを指します。具体的には、参加者はトピックにまつわる社会問題について、議論・研究をしていきます。オンラインでの勉強会では、世界各国からの専門家を招きメンターセッションを開くことも計画されています。与えられた社会問題についての現状を知ること、表面的ではなく深い知識を探ることは、本会議期間中により実現可能な政策を見出すのにとっても重要だと考えています。

< 本会議 >

● 分科会議論

国際学生会議の醍醐味は、分科会ごとに分かれて行われる議論を中心とした学術研究です。総合テーマに沿って5つの分科会テーマが設定され、1つのテーマにつき8～10名程度の参加者が共に議論を展開します。参加者は、自分のテーマに関して事前研究を行い、複数回の勉強会を通して夏の会議に備えます。会議では、様々なバックグラウンドを持った国内外の参加者が一堂に会し、白熱した意見交換を行います。最終的には、会議の最終日に設定された成果発表会や会議中にまとめ上げる政策提言書を通して、自分たちの議論の成果を社会に発信します。

5. 第69回国際学生会議 開催概要

＜各種交流企画＞

他で説明された主要プログラム以外にも、会議の参加者が交流を深めて友情関係を構築できるような企画や、参加者が楽しくより良い会議生活を送れるような活動を計画しています。分科会を超えて会議参加者全員と交流できる場であり、これらの時間を思い出として強く覚えている参加者も多くいます。第64回国際学生会議では、希望者が母国の文化や生活を参加者全員に紹介できる場を設けたり、朝食前にラジオ体操や日本の子供が好きな伝統的な遊びなどを体験できる時間を設定したりしました。

＜成果発表会＞

会議の最後には、会議の学術的成果を一般に向けて発表する機会が設けられています。それぞれの分科会が議論の成果をプレゼンテーションの形で総括し、自分たちの意見を世の中に発信していきます。実務を経験している専門家にもお越しいただき、各分科会の発表に対して講評をいただく時間や意見交換の機会も設けられています。会場には、中高大学生や一般の社会人の方を招待し、会議参加者がどのような意見を持っているかを知っていただくことや、分科会のテーマに関して考えを深める機会にさせていただくことを期待しています。



6. 第69回国際学生会議

総合テーマ説明

Be a Pioneer of the Next Generation: Action Towards Diversity, Sustainability, and Respect

In this post-COVID world, the current international society is undergoing some unusually turbulent times, which makes it difficult to gauge the future direction. While a number of countries have been gathering efforts to return to the "pre-COVID-19 era," there still exist barriers to active and unconstrained international exchanges. We also have been witnessing new bursts of violent conflicts across the borders of the world, which not only influence the countries directly involved but also their geopolitical neighbors and economic partners - resulting in global inflation, food shortages, and intensified security concerns. Such a world today could be best explained by the term "VUCA" (an abbreviation of "Volatility, Uncertainty, Complexity, and Ambiguity"), which societies across the globe inevitably have to deal with.

Nevertheless, the current global society is continuously calling for worldwide cooperation for achieving common goals, such as the Sustainable Development Goals (SDGs). Such a trend implies how consistent international dialogue and cooperation are still important actions to take to maintain peace in the world. There is also a rising importance of fostering prospective leaders among the younger generation, discovering those who can lead the next generation towards the common goal while respecting the diverse international society.

In response, the 69th International Student Conference (ISC69) invites students from various parts of the world to prepare themselves to become the pioneers of the next generation. This year's conference aims to encourage the participants to grow their global awareness and actively discover possible ways to innovate the world, taking collective and meaningful actions towards common goals. ISC69 will try to fulfill its annual goal based on the following three keywords: diversity, sustainability, and respect. Considering how the international society is approaching "peace and prosperity for people and the planet," the future global society should be sustainable for everyone across diverse communities, and the value of respect would allow each of us to recognize and get along with the differences we have.

With this being said, ISC69 would like to invite international students to our in-person conference in Tokyo, Japan, in the summer of 2023 to start thinking about our future - ISC69 would be a great place for all of us to explore our intersecting values and take action together!

6. 第69回国際学生会議

総合テーマ説明

次世代を担う開拓者になろう~多様性に溢れ、持続可能で互いを尊重しあえる社会を目指して

ポストコロナ時代と呼ばれる現在の国際社会は変動が激しく、今後の方向性を見定めることが難しい状況にあります。「コロナ禍以前の時代」に戻ろうとする動きが多く、多くの国で見られる一方で、活発で自由な国際交流を阻む壁も存在しています。また、国境を越えた新たな紛争の勃発は、直接の当事国だけでなく、地政学的な近隣諸国や経済パートナーにも影響を与え、結果として世界的なインフレや食糧不足、安全保障上の懸念が強まっています。このような世界は、VUCA（Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity）という言葉で表現され、これらの問題には国を跨いで協働して対処していかなければなりません。

現在の国際社会では、「持続可能な開発目標（SDGs）」のような共通の目標を達成するための世界的な協力が絶えず求められています。これは、世界の平和を維持するために、一貫した国際対話と協力がいかに重要であることを示唆しています。また、多様な国際社会を尊重しつつ、共通の目標に向かって次世代をリードするリーダー候補を若い世代から発掘することの重要性も高まっています。

そこで、第69回国際学生会議（ISC69）では、世界各地から次世代の先駆者となるべき学生を招待します。今回の会議は、参加者が世界規模での問題意識を高め、世界を革新する可能性を積極的に発見し、共通の目標に向かって集団的かつ有意義な行動を取ることを目的としています。ISC69は、「多様性」「持続可能性」「尊重」という3つのキーワードを元にして掲げられた今年度の目標「次世代を担う開拓者になろう~多様性に溢れ、持続可能で互いを尊重しあえる社会を目指して~」を達成するよう努めます。国際社会が「人と地球の平和と繁栄」に向かっていることを考えると、これからの地球社会は、多様なコミュニティの中で誰もが持続可能であるべきであり、互いを「尊重」することによって、それぞれが持つ違いを認識し協調することができるようになるはずです。

このように、ISC69では、2023年の夏に東京で開催される会議に留学生を招待し、私たちの未来について考え始めたいと思います。ISC69は、私たち全員が関わる価値を見出し、共に行動を起こすための素晴らしい機会となるはずです。

6.分科会テーマ詳細

I. Digital Nationalism: Decentralization of the internet; Formation of National Digital Ecosystems, Cybersecurity in China

Table Description: While digital technologies and the role of the internet has been regarded as one of the antecedents of globalization and the age of information, contemporary forms of nationalism challenges the idea of the free internet. Nation states are proposing to have their own and separate database, network and set of rules for their own nationalistic interests. The question of “Who governs the internet?” becomes an issue when the fear of borderless communication possibly compromising the domestic digital economy takes place. An instability in cyberspace is just as damaging as climate change; therefore, an analysis of contemporary nationalism with its link to the global communication ecology is essential to solve this issue.

Possible issues:

- Privacy Issues
- Surveillance capitalism
- Problems with Democracy and Freedom

Solution: Liberation of the internet through multilateral cooperation. Faster and earlier detection of breaches of data. Surveillance capitalism is unprecedented. So we need laws and regulatory regimes to respond directly to these new unprecedented operations

Outcome: Preventing the creation of multiple internets and allowing the public to have their right to an open and free internet.

Slogan connection: "Be a Pioneer of the Next Generation: Action Towards Diversity, Sustainability, and Respect"

This topic looks through the short and long-term effects of digital nationalism / sometimes (can be) referred to as Digital Authoritarianism. Increasingly, some governments (such as China and Russia) are seeing internet-related policy issues through a national lens and this creates a big threat for other governments, companies, and individuals. Hence, the topic strengthening respect beyond borders addresses this issue by highlighting the importance of protecting the open digital space and the humanities' role in solving contemporary political issues.

SDGs: (there is no direct SDG that addresses problems in the cyberspace)

SDG 4: Education

SDG 7: Affordable and Clean Energy

SDG 8: economic growth

SDG 9 : “Build resilient infrastructure, promote inclusive and sustainable industrialization and foster innovation”

SDG 10: Reduced Inequalities

6.分科会テーマ詳細

I. デジタルナショナリズム：インターネットの分散化、国家デジタルエコシステムの形成、中国におけるサイバーセキュリティジャーナリズム：ソーシャルメディアにおけるフェイクニュース・誤情報との戦い

課題：デジタル技術とインターネットの役割は、グローバリゼーションと情報化時代の前兆のひとつとみなされてきたが、現代のナショナリズムの形態は、インターネットの自由という課題に直面しています。国家は、自国の利益のために、独自の独立したデータベース、ネットワーク、ルールセットを持つことを提案しているのです。ボーダーレスなコミュニケーションによって国内のデジタル経済が損なわれる恐れが出てくると、「誰がインターネットを統治するのか」という問題が起こってきます。サイバースペースの不安定さは、気候変動と同じくらい有害なのです。したがって、この問題を解決するには、グローバルなコミュニケーションが展開される環境と結びついた現代のナショナリズムの分析が不可欠であるといえます。

問題点

- プライバシーに関する問題
- 監視資本主義
- 民主主義・自由主義の問題

解決策：多国間協力によるネットの解放。情報漏えいの早期発見と迅速化。監視資本主義は前代未聞のものです。そのため、これらの前例のない新しい運用に直接対応する法律や規制体制が必要である。

成果：複数のインターネット環境が作られることを防ぎ、国民がオープンで自由なインターネットを利用する権利を持つことができるようになる。

スローガンとのつながり：このトピックでは、デジタル・ナショナリズム（デジタル権威主義）の短期的・長期的な影響について考察します。中国やロシアなど一部の政府は、インターネット関連の政策課題を国家の視点に依拠して検討する傾向が強まっており、これは他の政府、企業、個人にとって大きな脅威となっています。それゆえ、この問題において、国境を越えた尊重の強化を主張する際には、開かれたデジタル空間を守ることの重要性和、現代の政治的問題を解決するための人文科学の役割が強調されるのです。

関連するSDGs項目：* サイバースペースの問題を取り上げた直接的なSDGはありません。

- 4「質の高い教育をみんなに」
- 7「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」
- 8「働きがいも経済成長も」
- 9「産業と技術革新の基盤をつくろう」
- 10「人や国の不平等をなくそう」

6.分科会テーマ詳細

II. Gender and LGBTQ: Combat Gender and Sexuality based discrimination

Table Description: Inclusivity is essential in our diverse world. The theme for this table will revolve around, - Now and Future Progress Beyond the Gender Binary and Sexuality. This table aims to investigate the present and potential progress and dynamics of genders, spanning from the role of states and organizations in establishing gender space to the modern gender discussion. It starts small, from media representation of the stereotypes to brutal gender-based violence. What can be done to protect the rights of the non-binary? Will promoting the rights of LGBTQ and non-binary have setbacks in the future? These are the few questions this table will tackle and explore various possibilities. Being the youth, it is our responsibility to find the key to such global issues even a small change can create a ripple effect. People have limited knowledge about gender and sexuality. Simple activities can be stewing for people who don't fit in the gender binary column. They experience harassment and other crimes daily. Less awareness and education create stereotypes and taboos that make them feel out of place. Further, suffer from mental health issues. Gender conformity is so ingrained in our society that we pick the pronouns on basis of the sex assigned at birth rather than our preferred gender identity.

This issue seems not that big when you first hear about it, but when you look into it, it's a rabbit hole of issues. Plaguing not only in a few countries but worldwide. Issues such as - Voting rights, Discrimination, Mental health, Finding jobs, Harassment, Healthcare, Ruthless crimes, etc. These are simply to name a few.

Possible issues:

- Media Representation
- Education
- Mindset
- Unequal opportunity

Solution: This table will design a solution based on a research-based analysis. The search will be both quantitative and qualitative. We will conduct interviews and form an action plan accordingly.

Outcome: The outcome of the work of this table will be a written academic paper discussing Gender and Sexuality based discrimination. The plan is to also build a usable solution such as a website or application which can further add to the process in increasing awareness regarding this issue.

Slogan Connection : Taking actions towards raising awareness about Gender, Sexuality and issues related by researching and finding solutions to create a better tomorrow.

SDGs:

1. SDG4 Quality Education
2. SDG5 Gender Equality
3. SDG10 Reduced Inequalities

6.分科会テーマ詳細

II. ジェンダーとLGBTQ

課題：

包括性は、私たちの多様な世界において不可欠です。このテーブルのテーマは、「ジェンダー バイナリーとセクシュアリティを超えた現在と将来の進歩」を中心に展開します。ジェンダー空間の確立における国家や組織の役割から現代のジェンダーの議論まで、ジェンダーの現在および潜在的な進歩とダイナミクスを調査することを目的としています。ステレオタイプのメディア表現についてから、残忍な性別に基づく暴力についてまで、幅広い議論が交わされています。

ノンバイナリーの権利を守るために何ができるでしょうか？ LGBTQ やノンバイナリーの権利を促進することは、将来的に何らかの障壁となるのでしょうか？ 小さな変化が波及効果を生むようなグローバルな課題の鍵を見つけるのは、私たち若者の責任です。

人々はジェンダーとセクシュアリティについて限られた知識しか持っていません。単純な行動が、性別の二項対立の欄に当てはまらない人々にとっては、煮え切らないものになる。彼らは日々、ハラスメントやその他の犯罪を経験しています。認識や教育が少ないため、固定観念やタブーが生まれ、居場所がないと感じてしまう。さらに、精神衛生上の問題にも悩まされます。

私たちの社会では、性別への適合が根付いており、自分の好みの性自認ではなく、出生時に割り当てられた性別を基準に代名詞を選んでいきます。

この問題は、最初に聞いたときはそれほど大きな問題ではないように思えますが、調べると問題の山場があります。一部の国だけでなく、世界中に広がっています。以下のような問題です。

1. 投票権
 2. 差別
 3. メンタルヘルス
 4. 仕事探し
 5. ハラスメント
 6. 医療
 7. 非情な犯罪など
- これらは一例に過ぎません。

問題点：

- メディアの表現
- 教育
- マインドセット
- 機会の不均等

解決策：調査に基づく分析に基づいて定量的および定性的解決策を設計します。ヒアリングを実施し、それに応じてアクションプランを作成します。

成果：ジェンダーとセクシュアリティに基づく差別について論じた学術論文になります。計画では、この問題に関する認識を高めるプロセスをさらに追加できる、Web サイトやアプリケーションなどの使用可能なソリューションも構築する予定です。

スローガンとのつながり：より良い明日を創るために、ジェンダー・セクシュアリティとそれに関連する問題についての認識を高め、解決策を見出すために行動します。

関連するSDGs項目：

- 4 「質の高い教育をみんなに」
- 5 「ジェンダー平等を実現しよう」
- 10 「人や国の平等をなくそう」

6.分科会テーマ詳細

III. Mental health impact during public health emergencies: Addressing mental health impacts of world health emergencies.

Issue: Public health emergencies have been occurring through the course of history in human civilization. Be it in terms of war, natural calamities or the recent COVID pandemic. As a result, mass suffering is visible which often brings out the gaps and loopholes in health systems across the nations. These insufficient and inaccessible health systems often deepen disparity and inequities – further exacerbating the burden on the people and society as a whole. This burden often translates into mental health implications which often remain invisibilized due to the stigma attached to mental health (especially in the southeast Asian, Middle-eastern context, among many and interplay with cultures across diverse countries in the world) and lack of awareness – thus, deepening mental health concerns and leaving them unaddressed. The globe is a diverse place with different issues, challenges which often see systems collapse at the time of emergency and there comes the disparity in reaction and damage control. These often take a toll on the citizens as they get reduced to digits and carry the burden of emergencies alone. Moreover, the disparity between the socio-economically secure people and the others widens. This directly and severely impacts their mental health with no address of the prevalent problem.

Solutions: To analyze the problem of invisibilized mental health concerns and create awareness around the same for better health outcomes. To further critically view the gaps in physical and mental health as a right and create dialogue around the same.

Outcomes: A research report addressing the integral nature of health as a right and barriers to achieving it. To be submitted to rights-based organizations working on health in the society in India, Japan, and other countries (if applicable) and to health ministries likewise.

Slogan connection: The topic is aimed at exploring the ISC theme through the lens of health and how health as a right can be accessible to everyone.

SDGs:

SDG3 – Good Health and Well-being

SDG10 – Reduced Inequalities

SDG17 – Partnerships for Goal

6.分科会テーマ詳細

III. 公衆衛生上の緊急事態におけるメンタルヘルスへの影響:世界的な健康上の緊急事態のメンタルヘルスへの影響への対処

課題: 公衆衛生上の緊急事態は、人類が歴史の中で幾度となく直面してきた問題です。戦争、自然災害、または最近のCOVIDパンデミックの焦点を当ててみると、国全体の医療システムにギャップや抜け穴が生じることが多く、大衆の苦しみが目に見える形で現れています。これらの不十分でアクセスできない医療制度は、しばしば格差と不公平を深め、人々と社会全体への負担をさらに増大させています。特に東南アジア、中東の文脈では、世界の多様な国の文化と相互作用する多くの中で顕著に見られています。更に人々の問題意識の欠如により、メンタルヘルスに対する懸念は深まり、それらは対処されないままになっているのです。緊急時にシステムが崩壊し、反応と災害制御に格差が生じることがよくある問題ですが、その深刻さは数字に矮小化され、一人が負う負担が大きくなり、市民に打撃を与えています。また、社会経済的に安定した人々とそれ以外の人々との格差が拡大しています。一般的にこれらの問題に対する対処法は考案されていません。

解決策: 目に見えないメンタルヘルスの問題を分析し、より良い健康状態への意識を高めます。身体的および精神的健康のギャップを権利としてさらに批判的に捉え、それに関する議論を生み出します。

成果: 権利としての健康の不可欠な性質とそれを達成するための障壁に対処する研究報告をします。インド、日本、およびその他の国（該当する場合）の社会で健康に取り組んでいる権利に基づく組織、および同様に保健省に提出します。

スローガンとのつながり: このトピックは、健康という視点から ISC のテーマを探求し、権利としての健康をすべての人行使できる方法を探ることを目的としています。

関連するSDGs項目:

SDG3 「すべての人に健康と福祉を」

SDG10 「人や国の不平等をなくそう」

SDG17 「パートナーシップで目標を達成しよう」



6.分科会テーマ詳細

IV. Transition towards green economy: Building resiliency through digital innovations

Table Description: The earth has been seeing unprecedented changes in the context of environmental sustainability. This is evidenced by climate change, the increasing level of deforestation, the rapid decline of clean water, soil erosion and many others. To mitigate the risks and dangers posed by deteriorating environment conditions, the concept of sustainable development has been refined within the past decades, from only discussing the pathway to sustainable forest management, to becoming a holistic approach and strategy that prioritizes desirable living conditions in the long term. This concept aims to create solutions for the well-being of humans, which was measured by, such as but not limited to, health and the fulfillment of material needs, such as clean air and water, opportunities for education and employment, and access to sufficient nutrition.

A green approach for the economy aims for net zero carbon emission, efficiency in using resources, and creating a more inclusive society. To achieve a green economy, resources are not used minimally, but optimally to boost growth in employment, income, and welfare, while preventing the deterioration of biodiversity and ecosystem. Meanwhile, the digital economy focuses on transforming economic activities into a non-physical world through internet connections between people, devices, businesses, government, and et cetera.

The integration of digital economy and green economy has been named as an opportunity to achieve the conditions expected by sustainable development. The synergy between the two relies on how the digital economy secures new means of citizens' empowerment through ICT, while maintaining the principles of a low carbon economy. Digitalisation can contribute to decoupling the flow of the economy from excessive use of natural resources and consequently, reduce environmental impacts. In addition to that, digitalisation has been rampant with innovation and hence may promote better employment opportunities. However, there may be some drawbacks to this as telecommunication networks spend a large amount of electricity consumption within their data centers. But it does not change the fact that some countries, such as South Korea, have been aiming to create a greener economy while providing more digital services and safety nets.

In the process of achieving sustainable development goals, it is therefore important to think about ways in which this opportunity can be maximized, strategies for countries who are interested in implementing this, and the solutions to mitigate potential negative impacts. This issue particularly correlates with the 8th and 13th goal of SDGs which aims to ensure economic growth and to respond to climate change. To conclude, this table will discuss how digitalization can aid development plans in transitioning towards a green and resilient economy.

Possible issues:

- Dispute on the drawbacks of digitalization (resource-consuming and carbon emission)

Solution: This table will create a social media campaign to raise awareness about a green economy.

Outcome: This table will write a policy proposal that would provide pathways and strategy to integrate digitalization into the process of transition towards a green economy.

Slogan connection: We are talking about creating environmental sustainability for the future through the advocacy of a green digital economy, while also keeping diversity and respect from the digitalization aspect (such as promoting digital innovation).

SDGs:

SDG 8 Decent work and economic growth

SDG 13 Climate action

6.分科会テーマ詳細

IV. グリーン経済への移行：デジタルイノベーションによるレジリエンスの構築

課題：地球は、環境の持続可能性という観点から、かつてないほどの変化を遂げています。この変化は、気候変動、森林伐採の増加、きれいな水の急激な減少、土壌浸食など、多くの現象に表れています。環境条件の悪化がもたらすリスクや危険を軽減するために、持続可能な開発という概念は、過去数十年の間に洗練され、持続可能な森林管理への道筋のみならず、長期的に望ましい生活環境を優先する全体的なアプローチと戦略についても議論されるようになってきています。この概念は、人間の福利のための解決策を生み出すことを企図し、その政策は、健康や、きれいな空気や水、教育や雇用の機会、十分な栄養へのアクセスなどの物質的なニーズの充足によって評価されてきましたが、これらに限定されるものではありません。

経済におけるグリーンアプローチとは、炭素排出量ゼロ、資源利用の効率化、より包括的な社会づくりを目指すものです。グリーン経済を実現するためには、生物多様性や生態系の劣化を防ぎつつ、雇用、所得、福祉の成長を促進するために、資源を最小限にとどめるのではなく、最適な形で利用することが必要です。一方、デジタルエコノミーは、人、デバイス、企業、政府などがインターネットでつながることで、経済活動を非物理的な世界に変換することに焦点をあてています。

デジタルエコノミーとグリーンエコノミーの統合は、持続可能な開発が期待する条件を実現する機会として注目されています。両者の相乗効果は、デジタル経済が低炭素経済の原則を維持しながら、ICTを通じて市民のエンパワーメントの新しい手段をいかに確保するかにかかっているのです。デジタル化は、経済の流れを天然資源の過剰な使用から切り離し、結果として環境への影響を低減することに貢献できます。さらに、デジタル化はイノベーションをもたらし、より良い雇用機会を促進する可能性があります。確かにそれには、通信ネットワークがデータセンター内で大量の電力を消費しているという欠点があるかもしれません。しかし、韓国のように、より多くのデジタルサービスやセーフティネットを提供しながら、より環境に優しい経済の実現を目指す国もあることに変わりはないのです。

したがって、持続可能な開発目標を達成する過程において、この機会を最大限に活用する方法、これを実施しようとする国の戦略、潜在的な悪影響を軽減するための解決策について考えることが重要です。この問題は特に、経済成長の確保と気候変動への対応を目指すSDGsの第8の目標と第13の目標に関連しています。このテーブルでは、グリーンでレジリエントな経済への移行において、デジタル化がどのように役立つかを議論します。

問題点：

- デジタル化の欠点（資源消費、二酸化炭素排出）についての議論

解決策：グリーン経済についての認識を高めるために、SNSでキャンペーン活動を行います。

成果：グリーン経済への移行プロセスにデジタル化を統合するための道筋と戦略を提供する政策提言を作成します。

スローガンとのつながり：グリーン・デジタル・エコノミーの提唱を通じて、未来に向けた環境持続可能性の創造を目指すと同時に、デジタル化の側面から多様性と尊重を保つ（デジタル・イノベーションの促進など）ことについて議論します。

関連するSDGs項目：

SDG8「働きがいも経済成長も」

SDG13「気候変動の具体的な対策を」

6.分科会テーマ詳細

V. Covid-19 and Income Inequality

Table Description: Inequality had shown its resurgence during the pandemic, and income inequality was one of the notable ones. Disparity widened more between the rich and the poor due to the recession and unequal income distribution. With both extreme poverty and billionaire wealth on the rise, the pandemic's effect on inequality may appear obvious.

Solution: To prevent future unequal income distribution when new global upheaval emerges.

Outcome: Policy proposal

Slogan connection: To anticipate future trend of income disparity and its impacts during another feasible crisis.

SDGs: 1. No poverty,
2. Zero hunger,
4. Quality education,
10. Reduced inequality.

V. COVID19と所得格差

課題：パンデミックの期間中、不平等が復活し、その中でも所得格差は顕著であった。不況と不平等な所得分配により、貧富の格差はより拡大した。極度の貧困と億万長者の富の両方が増加しているため、パンデミックの不平等への影響は明らかであると思われる。

解決策: 新たな世界的激変が生じたときに、将来の不平等な所得分配を防止すること。

成果：政策提案

スローガンとのつながり：このテーマでは、今後の所得格差の動向と、再び起こりうる危機におけるその影響を予測する。

関連するSDGs項目：

1. 貧困ゼロ、
2. 飢餓ゼロ、
4. 質の高い教育、
10. 不平等の解消

7.第68回国際学生会議実績

会議概要

正式名表記 第68回国際学生会議

英語表記 The 68th International Student Conference

総合テーマ “Big Step: The New Chapter of the Global Society and Our Lives ”
”大きな前進:グローバル社会の変革、私たちの生き方の改革 ”

分科会テーマ テーブルトピック一覧

● Table 1

Journalism: The phenomenon of fake news and disinformation ジャーナリズム:フェイクニュースと偽情報の現象

● Table 2

Frontier issues relating to recent development in the Law of the sea 近年の海洋法の動向に関して

● Table 3

Smart and Accessible Mobility: Learning from Cities of the World スマートなモビリティとアクセシビリティ:世界都市の事例をもとに考察する

● Table 4

Social Work: A Big Step Towards Protection of Peace and Human Rights ソーシャルワーク:平和と人権の保護に向けての大きな一歩

公用語 : 英語

活動内容 国際問題研究・ディスカッション・各種交流企画・成果発表会

参加人数 日本在住学生 18名 (うち実行委員9名) 海外在住学生 27 名 (うち実行委員9名) 計 45名
参加国・地域国 計17か国 日本国・イエメン・インド・インドネシア・エジプト・オランダ・ガーナ・ケニア・ソマリア・大韓 民国・ドイツ・ネパール・南アフリカ共和国・メキシコ・フィリピン・ベトナム・マウレタニア

※なお、上記の国・地域の正式名称は外務省のHPで記載された名称を引用。

7.第68回国際学生会議実績

助成

国際教育振興会賛助会 様

双日国際交流財団 様

三菱UFG国際財団 様

協賛

トランスアクト株式会社様

株式会社ジャイロス様

NOMON株式会社様

株式会社アゴス・ジャパン様

株式会社シグマライズ様

クラウドファンディング支援者の皆様（以下敬称略）

馬淵将明 様

スタバおじさん 様

えう 様

筑井為行 様

大金正知 様

tk_BunkaNet 様

Kitaji 様

松本 滉司 様

宮本大輝 様

アクエリアス 様

Kanlongtham Damrongsoontornchai 様

Shiki Aoyagi 様

Takeshi S.Komatani 様

後援

アムネスティ・インターナショナル

国際連合

8.第69回 国際学生会議

実行委員会名簿

- 代表** Maria Fransisca (マリア・フランシスカ)
帝京大学経済学部経営学科 2年
- 副代表** Minhwa Jeong (鄭 民和/ジョン・ミンファ)
早稲田大学 国際教養学部国際教養学科 3年
- Hiyori Urata(浦田 日和 /うらたひより)
東京外国語大学 国際社会学部 2年
- 財務** Wakana Suzuki (鈴木和奏/すずきわかな)
一橋大学 法学部法律学科4年
- 総務** Evan Agustian Lukius (エヴァン・ルキウス)
Maranatha Christian University, Faculty of Information Technology 3年
- Ivy Adomako(アイヴィ・アドマコ)
慶應義塾大学、環境情報学部 3年
- 渉外** Rion Miyauchi(宮宇地梨音/みやうちりおん)
慶應義塾大学 法学部 3年



8.第69回 国際学生会議 実行委員会名簿

広報

John Lester Teña (ジョン・レスター・テーナ)
Polytechnic University of the Philippines, Faculty of communication,
Journalism 4年

Isamu Nakanishi (仲西 勇/なかにしいさむ)
Aoba Japan International School 3年

Marian Louise Abio (マリアン・ルイーズ・アビオ)
University of the Philippines - Diliman, BA Journalism 4年

テーブルチーフ

Astrid Divana (アストリッド・ディヴァナ)
University of Indonesia, Faculty of Social and Political Science 4年

Chhavi Mahaur (チャヴィ・マホール)
Tata Institute of Social Science, Masters Social Work (with specialization
Public Health) 3年

Nicholas Nelson Foedarsono (ニコラス・ネルソン・フォーダルソノ)
Maranatha Christian University, Languages and Culture 3年

Orui Akiko (大類 晶子/おおるいあきこ)
同志社大学 経済学部 経済学科 国際教育インスティテュート 2年

Purvasri Das (プルヴァスリ・ダス)
Mody University of Science and Technology, Computer Science 4年



第69回国際学生会議 事業計画書

発行元：第69回国際学生会議

連絡先：japan.isc69@gmail.com